

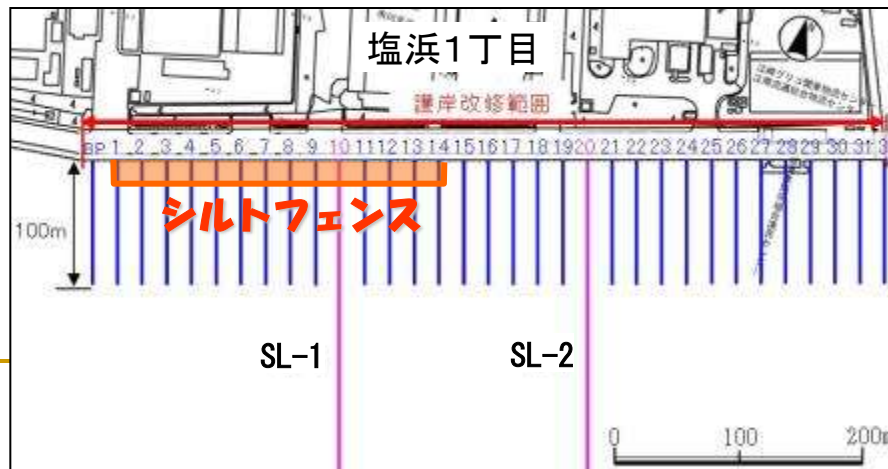
## 2 底質調査結果

調査方法 : ダイバーによる表層泥の採取、粒度試験

これまでの調査実施状況

施工後の経過年	調査年月日
施工前（夏季）	H22年 7月26～28日
〃（秋季）	H22年10月13～15日
〃（冬季）	H23年 1月12～14日
〃（春季）	H23年 5月24～26日
SL-1施工後 約2ヵ月後	H23年10月12日
〃 約9ヵ月後	H24年 5月22日

調査測線の状況 : 今回調査時には、石積護岸部の工事に伴い、測線SL-1（捨石工）の護岸のり先周辺にシルトフェンスが設置されていた。

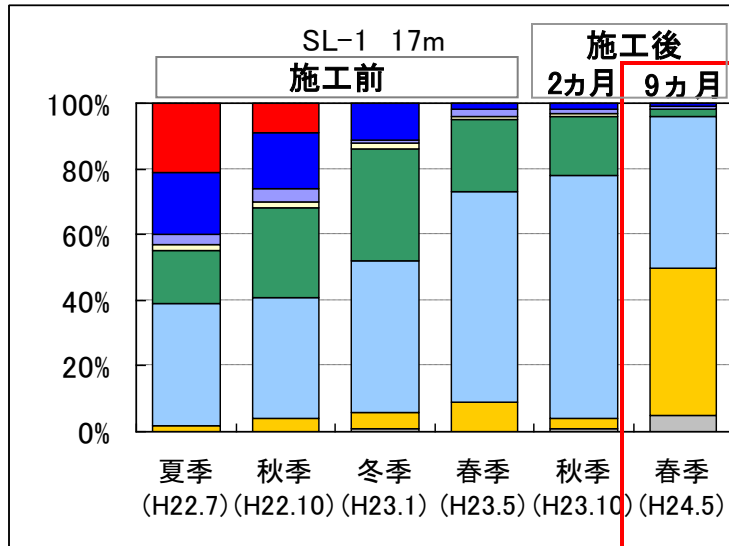


## 粒度組成の経時変化

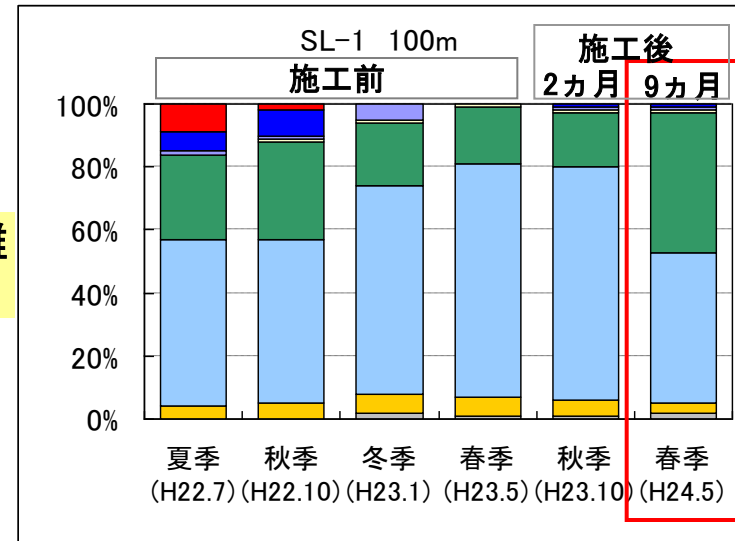
### SL-1 (捨石工)

・底質の検証地点（距離17m、100m）については、SL-1の護岸のり先（距離17m）以外は、基準となる値（泥分\*30%）を超える箇所は確認されなかった。（※泥分=シルト分+粘土分）

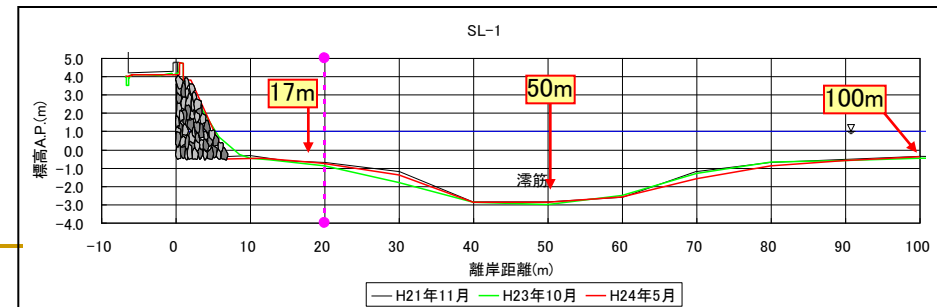
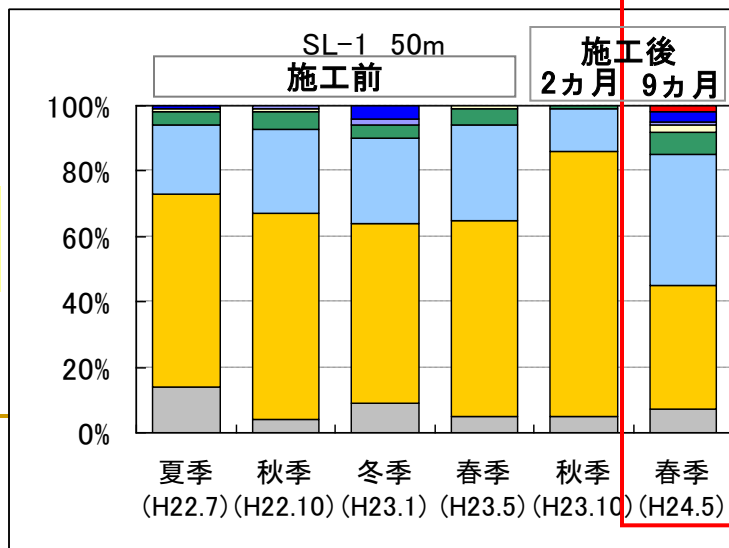
追加距離  
17m



追加距離  
100m



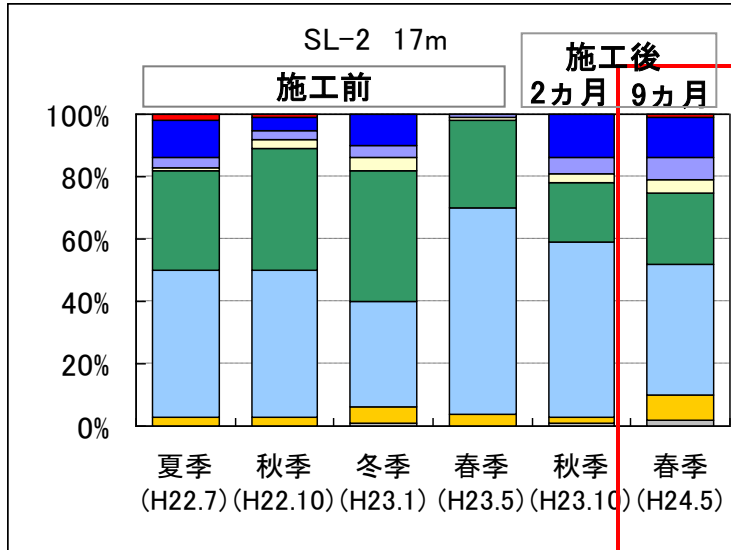
追加距離  
50m  
滞筋底部



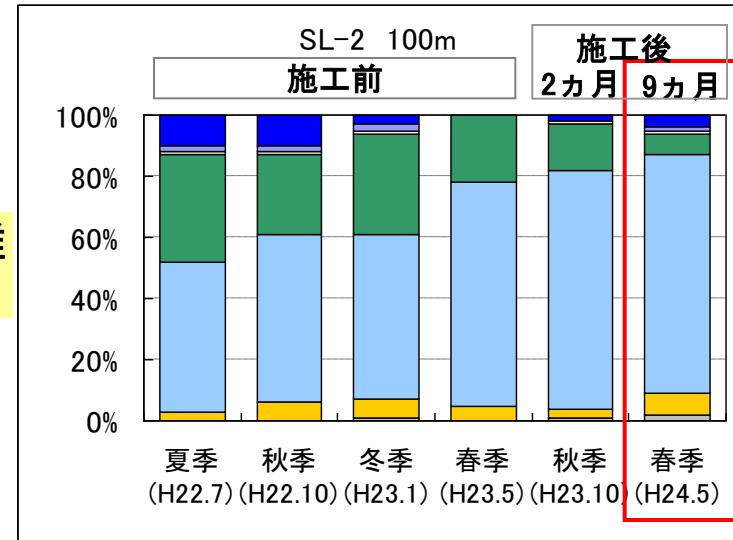
## 粒度組成の経時変化

### SL-2 (既設護岸) : 未着手部

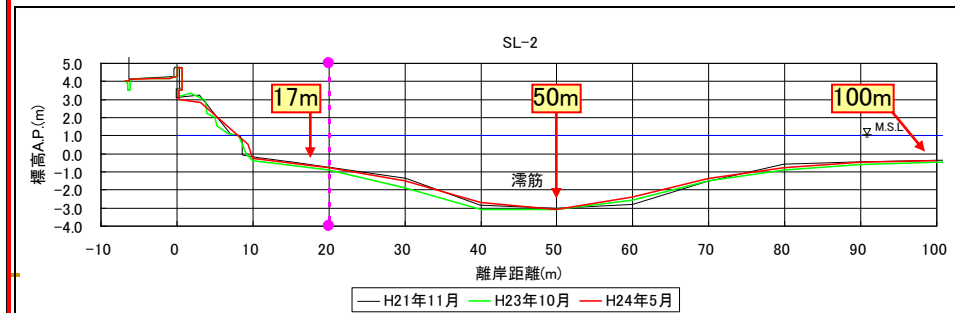
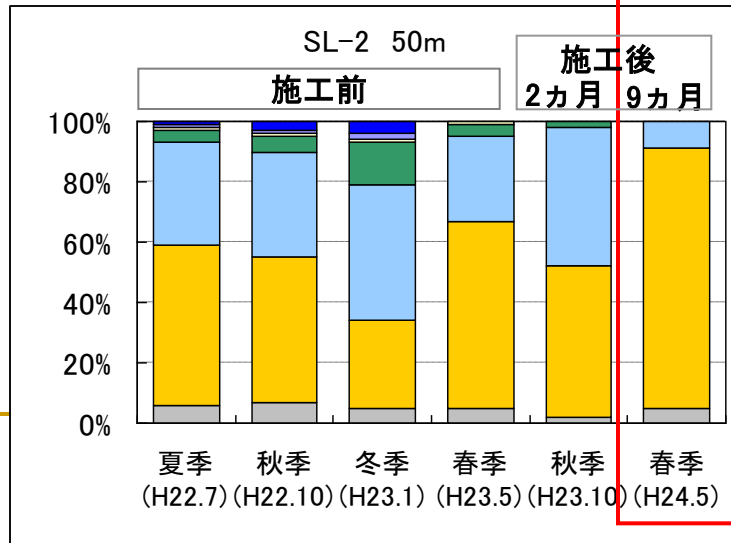
追加距離  
17m



追加距離  
100m



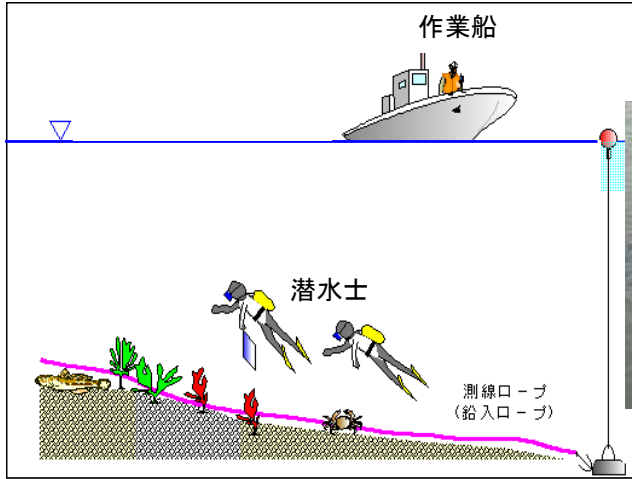
追加距離  
50m  
滞筋底部



## 3 海生生物の調査結果

調査実施日：平成24年5月22日

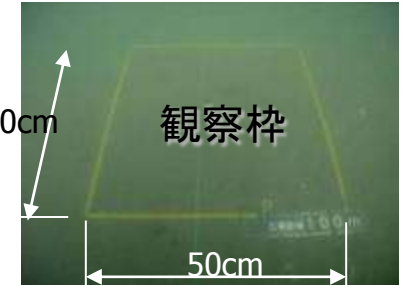
調査方法：ベルトトランセクト法を主体とする



水面下での調査状況

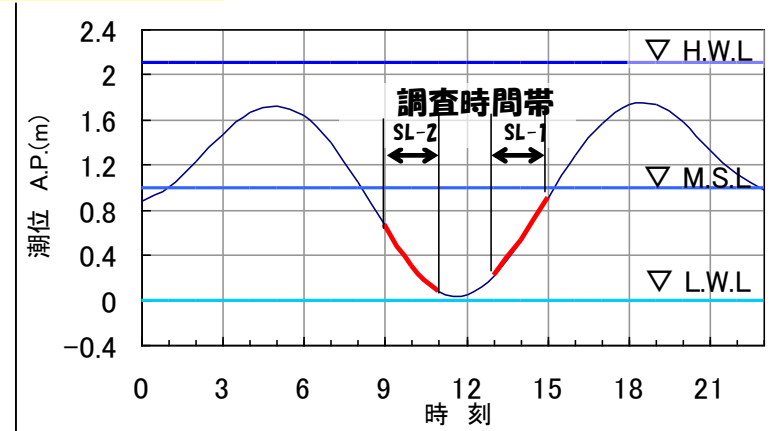


水面上での調査状況



調査時の潮位

平成24年5月22日の潮位



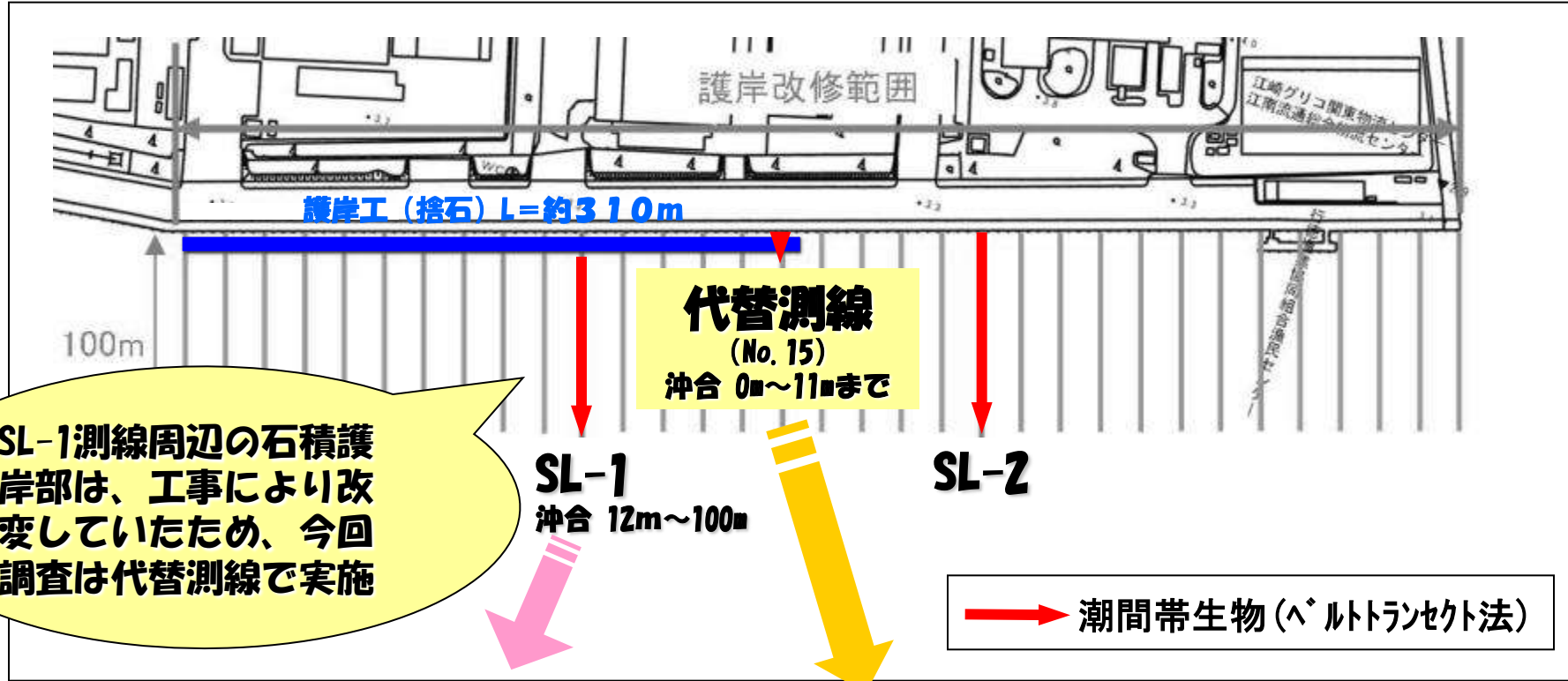
### 調査測線の状況

測線名	状況
SL-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H23年に捨石が施工</li> <li>・今回調査で<b>施工後 約9ヵ月</b></li> <li>・<b>石積護岸部</b>は工事により改変していたため、今回調査は<b>代替測線</b>で実施</li> </ul>
SL-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未着手</li> </ul>

### これまでの調査実施状況

施工後の経過年	調査年月日
施工前 (夏季)	H22年 7月26~28日
〃 (秋季)	H22年 10月13~15日
〃 (冬季)	H23年 1月12~14日
〃 (春季)	H23年 5月24~26日
SL-1施工後 約2ヵ月後	H23年 10月12日
〃 約9ヵ月後	<b>H24年 5月22日</b>

## 調査測線の状況



SL-1の石積護岸部周辺 (H24年5月22日)



工事による改変で、潮間帯生物が付着した石が、高潮帯より上部に積まれている

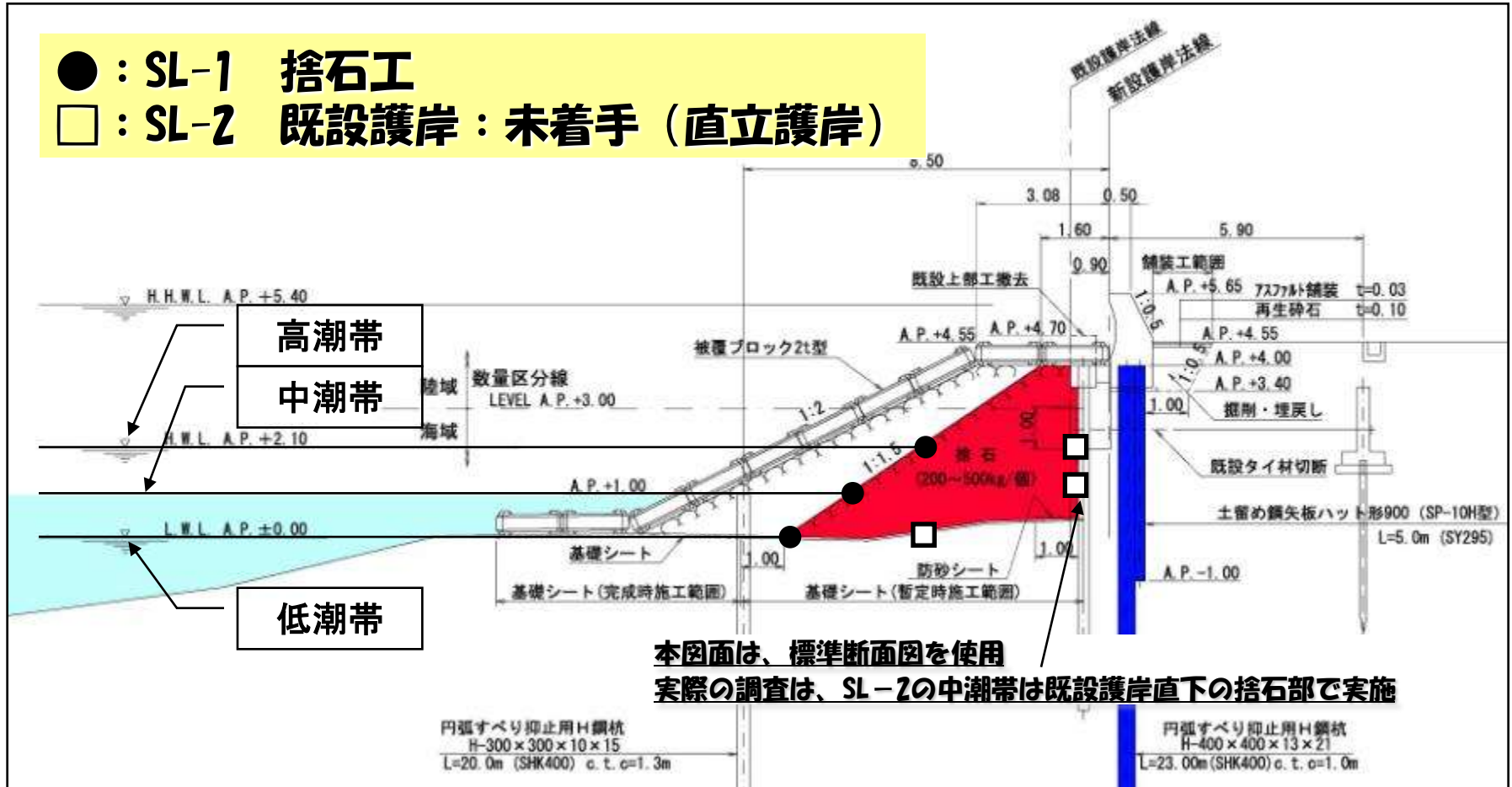
代替測線周辺





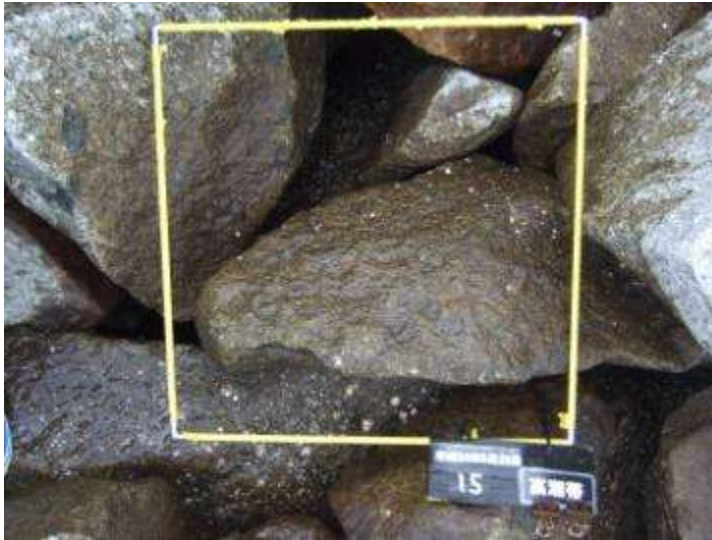
## 高潮帯・中潮帯・低潮帯の観察地点

- : SL-1 捨石工
- : SL-2 既設護岸：未着手（直立護岸）



## SL-1(捨石工) 潮間帯生物の状況

高潮帯  
周辺



高潮帯周辺では、イワフジツボ、  
シロスジフジツボなどを確認

中潮帯  
周辺



中潮帯周辺から低潮帯にかけては、  
海藻類のアオサ属や、イボニシが優占



中潮帯周辺ではマガキの着生  
を確認

## SL-1(捨石工) 潮間帯生物の状況

低潮帯  
周辺



低潮帯からのり先周辺にかけては、  
イソギンチャク目が優占



その他、低潮帯周辺では、アオサ属や、  
カンザシゴカイ科、イボニシ、ヤドカリ類な  
どを確認

のり先  
沖合



石積のり先から沖合では、  
ホンビノスガイが優占



## SL-2(既設護岸:未着手) 潮間帯生物の状況

### 高潮帯 周辺



高潮帯周辺では、イボニシ、アラレタマキビなどを確認

### 中潮帯 周辺



中潮帯から低潮帯にかけては、海藻類のアオサ属や、イボニシが優占

### 低潮帯 周辺



低潮帯周辺ではマガキが優占

### のり先 沖合



中潮帯から沖合17m付近にかけて、ケブサイソガニやヤドカリ類を確認  
沖合では、ホンビノスガイが優占

## 潮間帯生物(動物)の確認種数 (ベルトランセク法による調査結果)

種類数/0.25m<sup>2</sup>

護岸形状	施工前									施工後					
	夏季 H22. 7		秋季 H22. 10		冬季 H23. 1		春季 H23. 5		平均 4季	(2ヶ月後) 秋季 H23. 10		(9ヶ月後) 春季 H24. 5		平均 2季	
	SL-1	SL-2	SL-1	SL-2	SL-1	SL-2	SL-1	SL-2		SL-1	SL-2	SL-1	SL-2	SL-1	SL-2
	直立 護岸	直立 護岸	直立 護岸	直立 護岸	直立 護岸	直立 護岸	直立 護岸	直立 護岸		捨石	直立 護岸	捨石	直立 護岸	捨石	直立 護岸
高潮帯	3	3	4	4	2	1	3	6	3	3	6	2*	3	3	5
中潮帯	5	3	5	4	2	2	3	3	3	2	5	4*	7	3	6
低潮帯	1	4	0	5	2	4	3	5	3	6	4	6*	5	6	5

※SL-1のH24. 5は、工事により石積護岸部が変更していたため、代替測線での調査結果を示す

- ・捨石護岸(SL-1)では、今回調査を含む施工後2季の平均確認種数は、高・中・低潮帯ともに施工前と同程度かそれ以上であった。
- ・未着手の既設護岸(SL-2)についても、過去調査と同程度の種数が確認された。